

介護家族のサインを読み取る

高齢者を介護する家族が高齢者を取り巻く環境の一要素であることとらえた場合、家族を支援することで高齢者が生活している環境を整えるために通所事業所として取るべきアプローチとしてどのようなことが考えられるでしょうか。ここでは、デイサービス、デイケア、ショートステイの送迎時に家族と接する通所事業所職員に限定し、家族支援の立場で何ができるかについて考えてみたいと思います。

●送迎時にできること

通所事業所職員が家族と接することができるのは、ほとんどの場合朝夕の送迎の際のわずかな時間です。「おはようございま

す」のあいさつで始まり、「いってきます」で送迎車を発車させるまでの間に私たちは常にさまざまな情報収集が可能です。

「前回利用したときから今日利用するまでの間に何か変わったところは見られなかったか」「昨晩はよく眠れたのか。食事はちゃんと取れているか。排便是…」など、本人に声をかけ様子をうかがい、家族に直接聞きながら、各種サービスを受ける高齢者のいまの状態をできる限り把握することが求められます。

●家族（介護者）からのサイン

送迎時などで、言葉交換する際、家族にどれだけ目を向けることができるでしょうか。介護

している家族が発しているサインに気づき、その変化を受け止めることが家族支援の第一歩であることを意識したとき、はじめて私たちはより多くの情報を手に入れ、支援者として行動を起こすことができます。

●介護家族を支える言葉

送迎の間の短い時間、その間に交わされる会話のなかで、家族からのサインを受け取り、その思いに答える言葉返すことができたとしたら、その言葉がその家族を支えるひと言になるかもしれないのです。また、ひとり思い悩み言葉を発することのできずにいる家族のその思いに寄り添う言葉を発することで

家族が心の窓を少しでも開けることができたら、そこから家族に向けての支援の手を差し伸べることができるかもしれません。

このように考えてみると、私たちが何気なく行っている送迎の間の家族と接するわずかな時間は、在宅の高齢者を支援するうえで非常に貴重な時間だと捉えることができます。認知症は家族の病気だともいわれれています。高齢者だけでなく家族にも目を向け支援していくことは、高齢者の在宅支援を側面から支えていくことにつながるのです。

3. 家族支援と具体的な対応方法

家族に目を向けて受け止める

